

2014



石神井中だより

平成26年7月15日 発行 7月号

- 明るく、健康な生徒
- 正しい判断力を持ち、主体的に
学び行動する生徒
- 豊かな情操を持ち、品位ある生徒

<http://www.shakuji-j.nerima-ky.ed.jp/>

読書は心の糧

校長 田中 隆史

間もなく夏休みに入ります。1学期前半の教育活動を計画どおりに実施することができ、何よりうれしく思っています。保護者をはじめ地域の皆様には温かいご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

1学期前半は入学式に始まり、生徒総会、体育祭、岩井移動教室、I組との交流活動、職場体験などたくさんの行事がありました。生徒の皆さんの主体的な取り組みで充実した活動にすることができたと思います。本校の「行事に熱く燃え、全力を尽くす」という伝統が脈々と受け継がれていることを強く感じた1学期前半でした。

さて、生徒の皆さんが楽しみにしている夏休みが目前に迫ってきました。この夏休みにはどのような活動をしようか、それぞれ考えていると思います。この夏休みは、ある程度まとまった自分の時間をつくることができます。是非、自分にとってプラスになる時間の使い方を考え、実行して欲しいと思います。例えば、この夏休みにしか読めない本や名作と言われるような本をじっくりと読んでみてはどうでしょうか。

本校では、毎年、図書委員会がたくさんの生徒に図書館の本に触れてもらおうと「本の探検ラリー」を行っています。先月の26日(木)から6日間行われた「本の探検ラリー」には、約280名の生徒が参加し、それぞれクイズに挑戦しました。

本というのは、それを読む私たちにたくさんの知識を与えてくれます。いろいろな本を読むことによって、世界のあらゆる知識を得ることができます。また、実際に経験できないことを経験したように感じることもできます。昔に生きていた人に会えたり、その人と同様のものを見たり、感じたりすることもできます。願ってもみない幸運に恵まれたり、とんでもない悲しみのどん底に突き落とされるような経験も味わえます。このような本の魅力や素晴らしさを、

島崎藤村はある文章で「読まれないで並べてある書物は墓場である。眠っている本を読むと、その本は目を覚まし、読み手を遠い外国や昔の時代、美しい森や湖に囲まれた世界、小鳥のさえずる田園に誘い出してくれる。読書で時代を超えた夢の世界で遊ぶことも可能である。“驚いたり”“悲しんだり”“怒ったり”と心の葛藤もある。人の動きに胸打たれることもある。」と書いています。

「読書は心の糧」と言われるように、本は人間らしい心を育ててくれます。生徒の皆さんには、この夏休み中に少なくとも1冊は心に残るような本に出会って欲しいと思います。

